

ぐるり琵琶湖～新聞に見る鉄道今昔の旅～



平成18年10月21日、長浜 - 近江塩津間が直流化され琵琶湖環状線が実現しました。長浜から北へも京阪神から直接電車が乗り入れられ、より便利に、そして地域が活性化することが期待されています。

また、今秋は東海道本線全線電化からちょうど50周年を迎えます。湖東区間は東海道線で最後に電化され、これにより東海道全線電化を果たしたのです。鉄道の歴史の中で煤煙が消えた時、その様子はどのように新聞で伝えられたのでしょうか。それでは新聞でたどる鉄道今昔の旅に出かけてみませんか。(2面につづく)



滋賀日日新聞 昭和31年11月19日掲載

INDEX

- ・(特集)ぐるり琵琶湖～新聞に見る鉄道今昔の旅～・・・1～3面
- ・湖国の本棚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4面
- ・郷土資料紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4面

図書館催し

おはなし会

12月20日(水)・1月17日(水)
午前11時と午前3時の2回 1階談話室にて

人権啓発資料展

12月1日(金)～12月27日(水)
2階 参考資料室にて

初の日本人技術者のみによる鉄道敷設

明治を迎えて、西洋から様々な文明が押し寄せてきました。その中には鉄道もあり、その敷設は国家事業として進められました。そして明治5年(1872)日本初の鉄道が新橋 横浜間に開通しました。これを皮切りに次々と鉄道が敷設されましたが外国人技術者の手によるものでした。

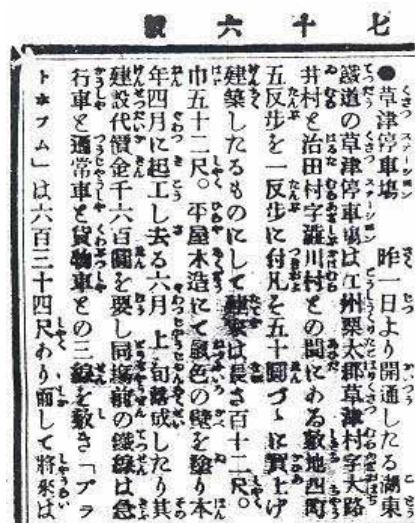
明治13年(1880)6月28日に、鉄道敷設に欠かせないトンネルを、日本人だけで困難の末に初めて完成させました。それが大津 - 京都間を結ぶ日本最初の山岳トンネル、逢坂山トンネルです。7月1日の朝日新聞(大阪)には、この鉄道史を飾る偉業をたたえ、開業式で関係者に賞状やご祝儀が贈られたとあります。逢坂山トンネルの完成は日本の鉄道の技術的自立を象徴するものでした。現在も鉄道記念物として、東側にはトンネル跡が西側には碑が残されています。

ちなみに4年後にも鉄道史上大きな意味を持つ当時最長のトンネルが、滋賀と福井の県境に造られました。それが旧北陸線、現在自動車道として利用されている柳ヶ瀬トンネルです。曲線トンネルでもあったことから工事は難航し、明治15年(1882)の長浜駅開業には間に合いませんでした。京都新報明治15年3月8日にも「柳ヶ瀬 - 長浜間は落成したけれど専ら工事中」とあり、関係者の苦闘がうかがえます。トンネルの完成には4年かかりました。

東海道線全線開通

米原から京都まで約3時間

東京と神戸を結ぶ鉄道建設は進み、東は関ヶ



日出新聞 明治22年7月2日

原を通り長浜まで、西は神戸から大津まで鉄道が延びました。残るは長浜 - 大津間のみです。湖東線区間の敷設は資金難などの理由から後回しとされ、琵琶湖を走る蒸

気船が長浜 - 大津間を結んでいました。しかし一刻でも早い湖東線の敷設を望む声が住民からも上がり(中外電報明治20年10月13日)ついに明治22年(1889)7月に湖東線が開通、東京から神戸までが鉄道で結ばれたのです。東海道線の全線開通です。明治22年7月2日の日出新聞には、花火が打ち上げられ提灯も飾られた祝賀ムード一色の草津駅の様子が伝えられています。

明治末期には鉄道の発達と共に旅のスタイルが変化し、寝台車や食堂車などのサービスが次々と導入されました。そして駅弁などを生み出し、日本独特の鉄道風景につながったと見られます。

大正時代には京都 - 大津間が勾配も少なく距離も短い現在のルートに線路改良され、東京 - 神戸間は特急列車にて1時間短縮されました(京都日出新聞大正10年7月28日)。そして新線開業に伴い、東海道線開通時から2度の移転を経て、現在の場所に大津駅が設置されました。このころ鉄道は興隆期を迎えます。しかし戦争の影がすぐ近くにまで忍び寄っていたのでした。

戦後復興と東海道線



朝日新聞(大阪) 昭和21年11月1日

戦後の日本は食料不足とインフレが深刻でした。県下にも京阪神から食料を買いに「買い出し部隊」が殺到しました(『滋賀県の百年』傳田功著 山川出版社 1984年)。駅では「買い出し部隊」の取り締まりが見られ、草津や守山の駅前に巡查駐在所が設置されたのもそういう事情があったことでした(『草津市史 第四巻』)。大阪、京都、滋賀、兵庫でも一斉取り締まりが行われ、鉄道警官も増員されました(朝日新聞(大阪)昭和21年11月1日)。当時の新聞には闇価格やヤミ米の記事が頻りに掲載されています。

希望を乗せて走る「電車」

輸送量を強化するため、鉄道の電化は明治末期から検討されていきました。東海道線も大正8年の閣議決定で電化計画が立てられましたが、太平洋戦争と資金不足の壁が立ちはだかります。しかし戦後の神武景気を迎え家庭の電化が始まった頃、国鉄の電化も急速に進みました。そして今からちょうど50年前の昭和31年(1956)、米原-京都間の電化により東海道本線は全線電化を果たしたのです。

煤煙の心配もなくなり、オレンジと緑色のおなじみの電車が湖国を走るようになりました。電化当日の11月19日には滋賀日日新聞で大きく特集が組まれ、煤煙から解放された沿線住民が畳を新調する話なども載せられています。20日の朝日新聞(滋賀版)には喜びにあふれる駅の様子や草津線への機関車取り替えなどできりきり舞いする草津駅員の姿が伝えられました。高度成長期を迎えた人々の目には、「電車」は人だけでなく夢や希望を運ぶように映ったかもしれません。

悲願の湖西鉄道



湖西鉄道敷設運動は明治時代から行われていましたが実現には至りませんでした。大正7年(1918)、ようやく沿線住民が株主となって江若鉄道が走り始めます。昭和22年(1947)には東海道線と接続し、賑わいを見せたこの鉄道も、バスや自家用車の普及と共に利用が減少、慢性的な赤字を抱えるようになり(『京都滋賀鉄道の歴史』田中真人、宇田正、西藤二郎著 京都新聞社 1998年)、昭和44年(1969)に国鉄に路線を譲りました。

湖西線ができるまでバスが代替輸送を行っていましたが、昭和49年(1974)7月に待望の湖西線営業が始まります。夏休みと同時スタートとなったこの日、21日の滋賀日日新聞によると1万2千人の人出があり、新しい近畿と北陸を結ぶ動脈の門出を華やかに飾りました。

あなたの思い出の日の新聞は・・・

今回の旅はいかがでしたか？新聞は当時のニュースだけでなく人々の息吹も伝えてくれる大切な資料です。図書館では主要な新聞は創刊号からマイクロフィルムの形で保存しており、また国内各地域の地方版も読むことができます。昭和58年(1983)4月以降の新聞ならば、県内の記事の見出しを言葉や人名でインターネットより検索ができます。皆さんの大切な思い出・・・その日の新聞からたぐってみませんか。

今月の BOOK まーく

時刻表を読んでみませんか

初の月刊時刻表である『汽車汽船旅行案内』の復刻版(『明治大正時刻表 復刻版 三宅俊彦編・解説 新人物往来社 1998年)を開いてみると折り込みの日本地図があり、当時の鉄道事情が一目でわかります。当時はまだ汽船による旅も多かったのでしょうか。航路も多く記載されています。

昭和初期初期の時刻表を見ると、明治22年の東海道全線開通当初には大津-東京が約17時間半かかっていたのが、戦争前には10時間弱となりました。しかし戦時中になると燃料不足のため本数が減らされ時刻表も薄くなり、乗車中に空襲があったときの注意事項も見られます(『時刻表復刻版 戦前・戦中編』日本交通公社 1978年)。

隠れたベストセラーと言われる時刻表。開けばそこには時代を映す新たな旅が待っているかもしれません。



FLASH ふらっシュ 書庫の本 ご用意できました



書庫出納の資料が何番の方までご用意できたかがパネルでわかるようになりました。このパネルは、アンケートでいただいた「書庫出納の呼び出しが、わかりにくい。」という皆様の声にお応えしたもので、書庫出納カウンター後ろに設置されています。席を外されて戻ってこられたときなどにご覧ください。

今月のデジタルアルバム帖

12月 「信楽焼」



12月は「滋賀県管下近江国六郡物産図説」から「信楽焼」について、陶土採取からろくろ回し、窯入れなど一連の工程を紹介します。

1月

江戸時代の近江を散策しませんか？

1月は絵図に親しんでいただくために、高精細で掲載されている近江国絵図の見方をはじめ、近江の街道・湖辺・山河・名所・旧跡などテーマ別にご紹介します。

湖国の本棚



中江藤樹のことば
- 素読用

中江彰 編
登龍館
明德出版社(発売)2006.8

本書には、中江藤樹が自らの著作のなかに遺したことば60編が収められています。それぞれのことばは、読みやすいようにふりがな付きの大きな活字で記載され、簡単な解説も付いています。

日本陽明学の始祖といわれ、近江聖人とも呼ばれる藤樹ですが、ここに記されたことばは、決して難解なものではなく、その内容も「胎教のところがけ」「人の短所を語らず」といった現代の私たちの生活においても役立つような普遍性を持っています。

ことばから入る中江藤樹の入門書とも言える本書からは、地元の人々が「藤樹先生」と慕った中江藤樹の人柄までもが見えるようです。

熱烈歓迎!

中国湖南図書館 張勇館長来館!



張勇館長(写真左)と県立図書館館長

去る8月15日、当館と姉妹図書館協定を結んでいる中国の湖南図書館から張勇館長が来館されました。

館内視察の後、開館時間には利用者の方々を玄関でお迎えするなど、当館のサービスを間近で感じていただきました

郷土資料紹介

伝教大師最澄 世界平和の祈り 歴史絵本
山本覚雄文 村上正師画 善本社 2006年
石山寺の古建築
石山寺編刊 2006年
鋳物師の歴史 第1巻
鋳物師の歴史編さん委員会編 滋賀県蒲生郡
蒲生町大字鋳物師区 2005年
市民による文化財保護を 松田のおばさん奮
闘記
松田常子著 サンライズ出版 2006年
敏満寺は中世都市か？ 戦国近江における寺
と墓
多賀町教育委員会編 サンライズ出版 2006
年
近代日本の教科書のあゆみ 明治期から現代
まで
滋賀大学附属図書館編著 サンライズ出版
2006年
N Z 留学親バカ日記 & カナダ人ホームステイ
ドタバタ日記
野原正和著刊 2006年
ポケットの石（ダイヤモンド） ドイツ大好
き校長日誌
木野和也著 文芸社 2006年
わらの家
大岩剛一著 蔭山歩作画 インデックス・コ
ミュニケーションズ 2006年
さざなみの譜 住民参画による火葬場「さざ
なみ浄苑」建設
近江八幡市火葬場建設記念誌編集委員会編

平成18年9月～10月購入・寄贈分

近江八幡市 2006年
江州刀工の研究
岡田孝夫著 サンライズ出版 2006年
相場振山 歌集
森山栄三著 皓星社 2006年
いぶき野 歌集
室谷八重乃著 短歌新聞社 2006年
邯鄲の里 原田慶詩集
原田慶著 方向社 2006年
物・もの・思惟 森哲弥詩集
森哲弥著 編集工房ノア 2006年
退職前後 ある素人詩人の裸の詩日記
大野充彦著 山口書店 2006年
あづち千年王国の幻想
会田和幸著 文芸社 2006年
落城記
樋渡勝男著 白地社 2006年